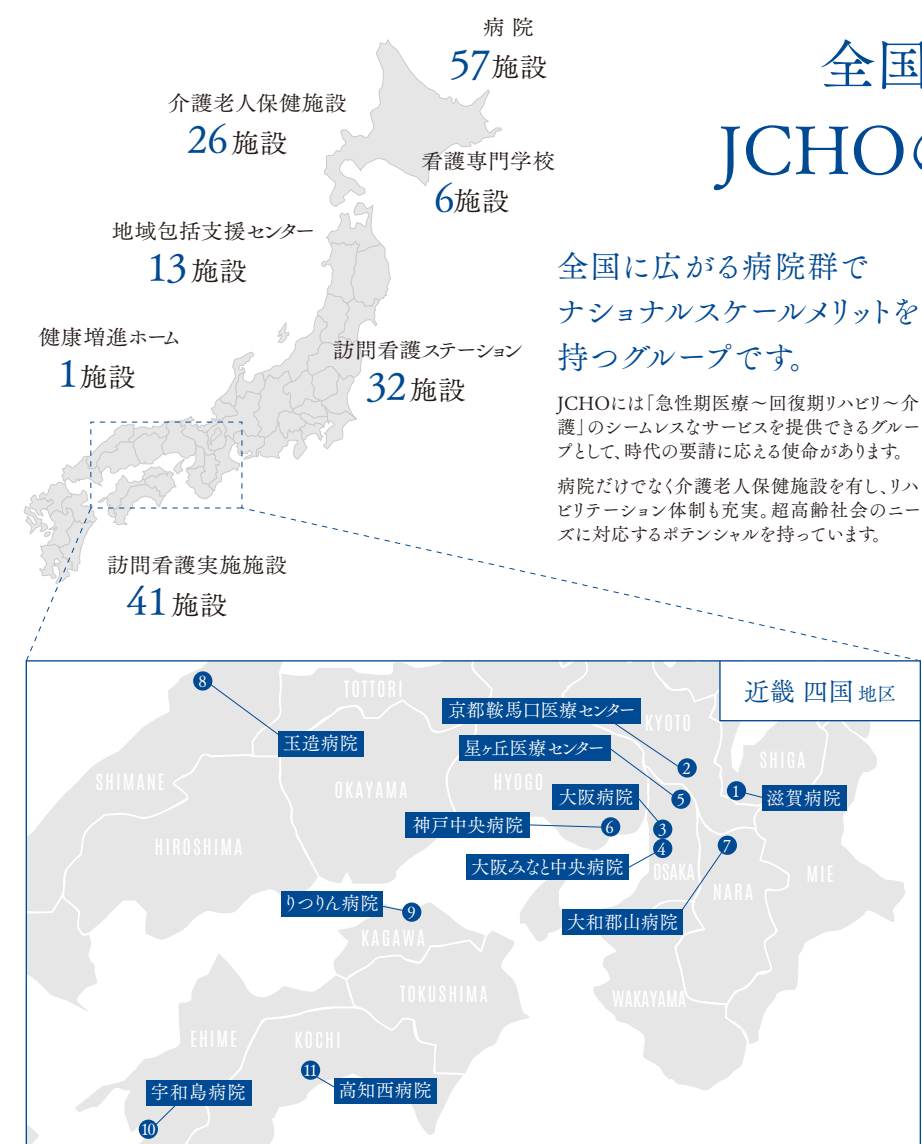


メディカルスタッフ案内
独立行政法人 地域医療機能推進機構 近畿四国地区



全国にひろがる JCHOのネットワーク

全国に広がる病院群で
ナショナルスケールメリットを
持つグループです。
JCHOには「急性期医療～回復期リハビリ～介護」のシームレスなサービスを提供できるグループとして、時代の要請に応える使命があります。
病院だけでなく介護老人保健施設を有し、リハビリテーション体制も充実。超高齢社会のニーズに対応するポテンシャルを持っています。



JCHO近畿四国地区事務所

〒553-0003 大阪府大阪市福島区福島4-2-78
TEL.06-6448-8680 / MAIL.main@chikukinki.jcho.go.jp

JCHO 近畿四国 検索



1 滋賀病院 滋賀県

<http://shiga.jcho.go.jp/>
☎077-537-3101
〒520-0846 滋賀県大津市富士見台16-1
詳しくはこちら▶

2 京都鞍馬口医療センター 京都府

<http://kyoto.jcho.go.jp/>
☎075-441-6101
〒603-8151 京都府京都市北区小山下総町27
詳しくはこちら▶

3 大阪病院 大阪府

<http://osaka.jcho.go.jp/>
☎06-6441-5451
〒553-0003 大阪府大阪市福島区福島4-2-78
詳しくはこちら▶

4 大阪みなと中央病院 大阪府

<http://minato.jcho.go.jp/>
☎06-6572-5721
〒552-0021 大阪府大阪市港区磯路1-7-1
詳しくはこちら▶

5 星ヶ丘医療センター 大阪府

<http://hoshigaoka.jcho.go.jp/>
☎072-840-2641
〒573-8511 大阪府枚方市星丘4-8-1
詳しくはこちら▶

6 神戸中央病院 兵庫県

<http://kobe.jcho.go.jp/>
☎078-594-2211
〒651-1145 兵庫県神戸市北区惣山町2-1-1
詳しくはこちら▶

7 大和郡山病院 奈良県

<http://yamatokoriyama.jcho.go.jp/>
☎0743-53-1111
〒639-1013 奈良県大和郡山市朝日町1-62
詳しくはこちら▶

8 玉造病院 鳥根県

<http://tamatsukuri.jcho.go.jp/>
☎0852-62-1560
〒699-0293 鳥根県松江市玉湯町湯町1-2
詳しくはこちら▶

9 りつりん病院 香川県

<http://ritsurin.jcho.go.jp/>
☎087-862-3171
〒760-0073 香川県高松市栗林町3-5-9
詳しくはこちら▶

10 宇和島病院 愛媛県

<http://uwajima.jcho.go.jp/>
☎0895-22-5616
〒798-0053 愛媛県宇和島市箕古町2-1-37
詳しくはこちら▶

11 高知西病院 高知県

<http://kochi.jcho.go.jp/>
☎088-843-1501
〒780-8040 高知県高知市神田317-12
詳しくはこちら▶

JCHOの理念

我ら全国ネットのJCHOは地域の住民、行政、関係機関と連携し地域医療の改革を進め、安心して暮らせる地域づくりに貢献します

4つの使命

- Mission 1 地域医療、地域包括ケアの要として、超高齢社会における地域住民の多様なニーズに応え、地域住民の生活を支えます。
- Mission 2 地域医療の課題の解決・情報発信を通じた全国的な地域医療・介護の向上を図ります。
- Mission 3 地域医療・地域包括ケアの要となる人材を育成し、地域住民への情報発信を強化します。
- Mission 4 独立行政法人として、社会的な説明責任を果たしつつ、透明性が高く、財政的に自立した運営を行います。

5事業5疾病 -5つの医療で地域のニーズへ対応-

5事業 救急医療、災害医療、へき地医療の支援、周産期医療、小児医療

- 救急医療 地域住民と地域医療に貢献するために、救急医療に積極的に取り組み、救急患者の受入数の増加を目指します。
【●救命救急センター:12施設 ●救急医療提供病院:57施設】
- 災害医療 大規模災害が発生した場合には、被災地の実情に応じ、災害発生初期のみならず持続的に支援を行います。
【●災害拠点病院:13施設 ●災害支援病院・協力病院・救護病院:14施設】
- へき地医療 へき地を含む医師不足地域への支援について、全国的なネットワークを活かして協力を行います。
【●へき地医療拠点病院:4施設 ●へき地診療の支援:12施設 ●へき地診療所の指定管理者:2施設】
- 周産期医療 分娩数、ハイリスク分娩数、母体または新生児搬送の受入数の増加を目指します。
【●地域周産期母子医療センター認定:16施設 ●ハイリスク分娩取扱病院:15施設】
- 小児医療 小児救急患者の受入数について増加を目指します。
【●小児救急医療(病院併輪番制・夜間休日対応):23施設】

5疾病 がん、脳卒中、急性心筋梗塞、糖尿病、精神疾患

地域のニーズを踏まえ、各病院においてこれまでの取り組みの充実を図ります。



- 01 メッセージ
- 03 薬剤師
- 04 診療放射線技師
- 05 臨床検査技師
- 06 管理栄養士
- 07 理学療法士
- 08 作業療法士
- 09 言語聴覚士
- 10 支援制度

安心の地域医療を支える。 私たちは、JCHO。

世界に類を見ないスピードで高齢化が進み、超
少子高齢社会を迎えつつある日本。医療機関は、
これまでの、単に「病気を治す医療」を提供するだ
けでは、こうした状況に対応することはできませ
ん。これからの日本の医療は、「暮らしを支える医
療」に大きくシフトしていく必要があるのです。
その基本となるのは、地域医療の充実です。時
代によって変化する課題や地域のニーズにしっかり
と対応し、人々の健やかな毎日を守ることを求め
られています。そこがJCHOのミッション。
地域の方々が安心して暮らすを支えるのが使命
です。今まさに、メディカルスタッフの一人ひとりが、
プロフェSSIONナルとして確かな技術で地域医療や
地域の包括ケアを提供し、地域社会に貢献するこ
とが期待されているのです。
この国の医療を地域から支え、守る。そんな目
標を共有し、JCHOの一員として、ともに歩んで
いきましょう。



あらゆる事態に対応できる薬剤師に。
自己研鑽をし理想の姿を追求。

小山 貴士
入職1年目



午前中は調剤を担当し、午後からは外来窓口の受付をするといったローテーションを基本に業務を行います。



対面で患者さんと会話をする服薬指導の時間が一番楽しいと感じる時間です。

薬剤部門

薬剤師

PHARMACIST

父の姿に憧れ薬剤師を目指し、チーム医療の一員として業務に注力。自宅でも知識の習得に力を注ぎ、業務に必要な書類作成を黙々とこなす…。そんな父の姿を見て憧れ、小学生の頃から薬剤師を目指すようになりました。今は、その念願がかない、星ヶ丘医療センターで薬剤師の一員として働いています。業務は主に、調剤や外来窓口の対応、医薬品の管理などを担当しています。先輩からのマンツーマンでの指導を経て、最近では、どんどん新しい業務を経験させてもらえるようになりました。一番やりがいを感じるのは、患者さんと直に接する窓口業務です。最初は対応するだけで精一杯でしたが、現在は、自分自身で判断して服薬指導などを行うことができるようになりました。カルテに従って調剤することだけが薬剤師の仕事ではありません。チーム医療のなかで、あらゆる事態に対応できることが求められています。患者さんの命にかかわるような緊急事であっても、適切に対応できる。そんな薬剤師を目指して努力しているところです。JCHOの先輩方は、高い向上心を持って熱心に使命に取り組む人ばかりです。他職種との連携も密で、チームワークも抜群です。そんな恵まれた環境のなかで、父のように自己研鑽を怠らず成長し続けたいと思います。



幅広い検査を経験することで放射線検査に対する総合的な知見を養う

メイカースタッフは医師の補佐役というイメージが変わったのは、大学での病院実習でした。臨床現場で、チーム医療の一員として医師に助言できる立場で業務を遂行する姿を目の当たりにして感動し、それまで、将来の進路を決めかねていたのですが、診療放射線技師になる決心をしJCHOに入職しました。

勤務する大阪病院では、幅広い検査を担当しています。充実した設備環境のなかで、一般撮影、マンモグラフィ、骨密度検査、MRI、血管撮影検査などの業務に携わっています。入職当初は業務をこなすことで精一杯でしたが、さまざまな検査を経験することで断片的だった知識の「点と点」がつながるようになりました。単に順番通り「作業」としてこなすのではなく、それぞれの意味を考えたりで検査に臨めるようになりました。また、多様な検査を一通り担当することで短い期間で経験値が上がり、「検診マングラフィ撮影認定」を入職2年目で取得することができました。最新医療の前線で充実した毎日を送る今、診療放射線技師になって本当によかったと実感しています。医師に自ら提案し、医師から全幅の信頼を得られる診療放射線技師へ。遠い道のりですが、そこに向かって努力していきたいです。



入職2年目で新人研修を任されることで、自分自身の理解度の向上にもつながり自信になりました。



診療放射線部門

診療放射線技師

RADIOLOGICAL TECHNOLOGIST



検査機器で撮影するだけでなく、検査全体の画像所見を発見することが毎日のルーティンとなっています。



医師に助言できる立場で業務を遂行。そんなプロフェSSIONナルを目指す。

川手 真奈
入職6年目

さらに検査の幅を広げて、
飽くなき探究心でチーム医療に貢献。

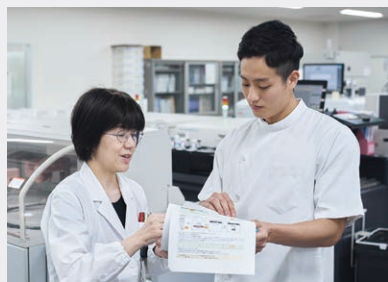
植松 広治
入職3年目



業務を通して常に探究心を持って研究テーマを探り、将来は、JCHOの学会で発表したいと考えています。



患者さんから提供された検体を、情報に基づいて正確かつ、迅速に検査結果を報告できるよう努めています。



臨床検査部門

臨床検査技師

MEDICAL TECHNOLOGIST

未知のウイルスに対応し
微生物検査の重要性を改めて実感

メデイカルスタッフになりたいと考え始めた当時、「チーム医療」の考え方が注目されるようになっていった。もともと、細かいデータを分析することが得意だった。そんな特技を活かしチーム医療の一員として活躍したいの思いから、臨床検査技師を目指すようになり。今は、主に微生物検査を担当しています。

微生物検査は、有効な治療を導き出すうえで、とても重要な役割を担っています。それを実感したのが、新型コロナウイルス(COVID-19)の検査を担当したときでした。普段から罹患などのアクシデントを避けるために入念に準備しますが、今回は未知のウイルスということもあり院内感染に細心の注意をはらいながら検査を行いました。このことにより、医療にとって微生物検査という業務が極めて大切だということを感じ、大変貴重な体験となりました。

JCHOには独自の学会があり、臨床現場から得られる知見を発表し共有する場になっています。将来的には、その場で論文を発表するのが目標です。また、さまざまな検査を担当して経験値を高めチーム医療に貢献したいと考えています。そのために、探究心を持って日々の検査に力を注いでいます。



栄養部門

管理栄養士

REGISTERED DIETICIAN



患者さんから丁寧に傾聴しながら、最適な栄養指導や栄養管理業務を行っています。

しっかりと傾聴することで
オーダーメイドの食事を提供

大学卒業後、食品会社に勤務していました。その間、祖母が病に倒れ、食事も満足に摂れずやせ細る姿に側で接するうちに、改めて食の大切さを実感しました。祖母のような人たちを何とか救いたいと考え、取得した管理栄養士の資格を活用しようと思い転職を決めました。JCHOへ入職し、現在は大阪病院内の病棟で入院患者さんの栄養管理と指導を行っています。

一口に食事と言っても、入院される方は薬の影響などで、食欲がなかったり飲み込めなかったりすることが多く個別の対応が求められます。その際に気をつけているのは、患者さんのお話をしっかりと傾聴することです。そのうえで、メニューを一人ひとりに応じて調整し提供しています。一番の喜びは、患者さんから直接、感謝の言葉をいただいたときです。管理栄養士に転職してよかったと心から感じます。これからは、糖尿病専門の病棟を担当予定です。専門資格の取得を目指すなど、さらに「食のプロ」としてのレベルを高めていきたいです。

JCHOは、育児と仕事を両立できる手厚い制度もあり、女性医療者にとっても働きやすいのが魅力です。ずっとここで働き続けて、他のメデイカルスタッフにも頼られる管理栄養士になりたいです。



管理栄養士だけでなく、他のメデイカルスタッフからも信頼される人材になるのが目標です。

「食のプロ」としての意識を高め、
周囲から真に信頼される人へ。

伊藤 温子
入職4年目



成長できる環境のなか、
幅広く活動し社会に貢献したい。



中川 志保
入職2年目

怪我による挫折から復活 自身の経験から理学療法士へ

高校生のときに、膝の前十字靭帯を損傷し、大好きなダンスがまったくできない状態となりました。そのような状態から理学療法士（PT）の皆さんのおかげでダンスを続けられるまでに回復したことから、「私も同じ境遇の人を助けたい!」と思うようになりました。専門学校の実習で、星ヶ丘医療センターで出会ったPTの皆さんが、真摯に患者さんと向き合いながら他の医療職の方々とともに治療を行う姿に感動しました。今度は「JCHOで働きたい!」と熱望して入職し、PTとして治療にあたっています。



様々な疾患の患者さんを担当することで
将来の専門分野を決めていきます。

最初は、整形外科疾患のリハビリを専門として知識や手技を磨きたいと考えていました。しかし、整形外科疾患から内科疾患の患者さんを担当するようになって、呼吸器や心臓の疾患から身体が思うように動かせない方が数多くおられることを痛感しました。ますます進む高齢化社会では、こうした状況に対応できるPTがもっと必要なのではないか。そう考えるようになり、内科疾患のリハビリについても興味を持って取り組んでいるところです。

休日に障害者スポーツを支える医療ボランティアにも参加するなど、院外でも積極的に活動しています。情熱あふれるJCHOの先輩方のもとでPTとして成長しながら、社会にも貢献していきたいです。



理学療法士だけでなく、作業療法士や看護師、ケアマネージャーなど、チーム医療によって患者さんを支えます。

リハビリテーション部門

理学療法士

PHYSICAL THERAPIST



全国規模で展開する医療機関であることに魅力を感じJCHOに入職し、今は脳神経外科を専門にリハビリを担当しています。

臨床工学技士から作業療法士へ 日々勉強を怠らず結果につなげる

前職は、機械の操作が主な仕事の医療職でした。「もっと人と接しながら成長したい」との思いから転職を決意しました。患者さんに深く関わられる作業療法士（OT）に魅力を感じるようになり、再び専門学校に入学しOTを目指しました。その中で、リハビリに特徴があるグループの各病院を経験できるJCHOに魅力を感じ入職しました。整形外科疾患から脳神経疾患、消化器疾患など、病気により障害が残った方のリハビリを行っています。

OTの役割は、患者さんが元の生活に戻れるよう日々行う動作の回復を手助けすることです。一人ひとりのライフスタイルを考慮したうえでリハビリを行う必要があり、毎回課題と発見があります。最初は分からないことが毎日のように発生し、自分で調べたり先輩やドクターに質問する日々でした。入職して1年が経った頃、担当した患者さんが予定より早く退院でき喜んでいただけただけで、自信が持てるようになりました。

JCHOのメディカルスタッフは、全員が探究心を持って業務を遂行する医療のプロです。幅広い症例に触れることのできるJCHOで、周囲から大きな刺激を受けながら高いレベルで総合的な知識・スキルを持ったセラピストになる。それが、最終的な目標です。



健常者にとって当たり前のことができない患者さんのために、一人ひとりの生活スタイルに合わせて動作の回復へと導きます。

リハビリテーション部門

作業療法士

OCCUPATIONAL THERAPIST



自分を磨ける絶好の環境で、
すべての知識・スキルの向上を。

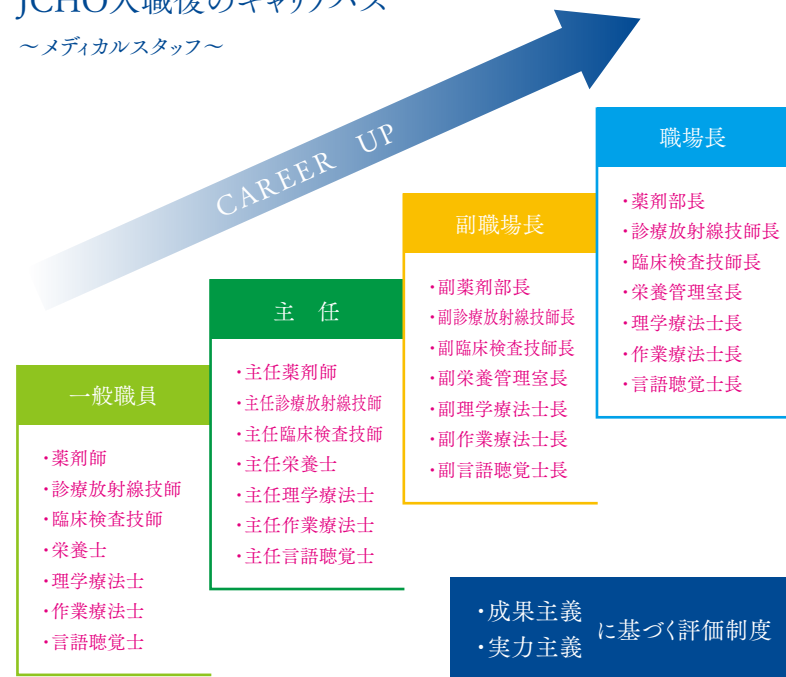
山中 優
入職2年目

充実した支援制度でキャリアをサポート

JCHOでは、さまざまな支援・研修制度、独自の学会を設けて、地域医療・地域包括ケアを支える人材を育成。職員一人ひとりのキャリアアップをサポートします。

JCHO入職後のキャリアパス

～メディカルスタッフ～



JCHO 地域医療総合医学会

毎年、テーマ・カテゴリーに応じたJCHO各病院の取り組み等について、講演やポスター発表等を行うJCHOの学会を行っています。



働きやすい職場づくり ～ワーク・ライフ・バランス支援～

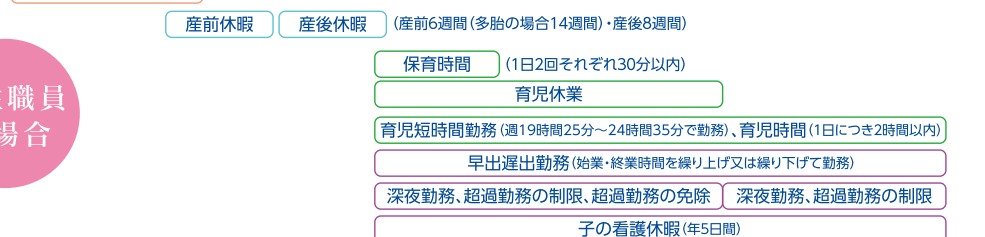
職員が仕事と生活を当たり前に両立できる環境づくりを行っています。それぞれの価値観や望むライフスタイルに沿って、安心して働き、休暇を取り、仕事が継続できるように、仕事と育児・介護を両立するためのさまざまな制度を利用できます。

休暇等	
休日	●1ヶ月を通じて8日又は4週間を通じて8日制度
病気休暇	●最大90日まで
祝日	●国民の祝日に関する法律に規定する休日 ●12月29日～1月3日(年末年始) ※勤務した場合は代休又は割増賃金
特別休暇	●夏季休暇(3日)、忌引き、結婚休暇、産前産後休暇、子の看護休暇(5日)、保育時間、介護休暇 等
年次休暇	●1暦年20日付与 ※4月採用時は15日付与 ●1年に20日繰越可
その他	●育児休業 ●自己啓発等休業 ●介護休業 ●病気休職 等

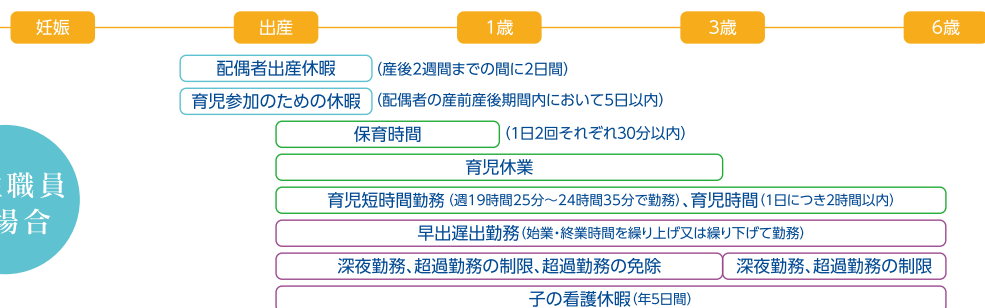
育児に関する両立支援制度の利用可能期間

深夜勤務、時間外勤務及び休日勤務の制限	院内保育所 多くの病院に院内保育所を整備 (延長保育を実施している病院もあります。)
健康診査及び保健指導のための職務専念義務免除	
業務軽減等	病児保育所を運営している病院もあります。
通勤緩和	
休息、捕食のための職務専念義務免除	

女性職員の場合



男性職員の場合



リハビリテーション部門

言語聴覚士

SPEECH-LANGUAGE HEARING THERAPIST



人の役に立ちたい。そんな思いから、大学卒業後に図書館司書として働きながら言語聴覚士を目指しました。

文系から言語聴覚士へ
他職種の考えを取り入れ幅を広げる

大学は文系学部を卒業し、働いていました。しかし、直接人の役に立つ仕事をしたいと言語聴覚士を目指し専門学校に入学しました。免許取得後はJCHOに入職し、地元の星ヶ丘医療センターに配属され、脳梗塞や高次脳機能障害などの後遺症で、言葉や飲み込みが不自由な患者さんを中心にリハビリを行っています。入職して数年は、目の前の人を対処するのに必死で深く考えることなくリハビリを行っていました。経験を積み患者さん一人ひとりに向き合えたことで、個々のライフスタイルを尊重したよりよい方法があるのではと考えるようになりました。そこで、他職種の手法を学ぼうと学会に参加したり勉強会を開催するなどして他の職種間で積極的に意見を交換し、例えば、他のセラピストや看護師といった、S/T以外のメディカルスタッフからのアプローチを学ぶことで、広い視野を持つようになりました。

JCHOは、全国に広がるネットワークにより最新の医療に触れる機会が多く、やる気があれば、どんどんレベルアップできます。また、休暇制度が充実しているためプライベートを大切にしながら働けるのも魅力です。そんな環境を十分活用し、他の医療職と一緒に頑張って患者さんのリハビリに力を注いでいきたいです。



言語聴覚室や患者さんのベッドサイドなどで、患者さんの気持ちを尊重しながら「言葉のリハビリ」を行っています。

多様な経験を積むことができる。
そんな強みを最大限に活かして。

中村 優
入職5年目